

# 放射線科

## I プログラムの名称

日野市立病院 放射線科初期臨床研修プログラム

## II プログラムの管理・運営

日野市立病院臨床研修管理委員会においてプログラムの管理・運営を行う。

プライマリ・ケア医の研修養成課程で、放射線科を選択科目と研修希望するものを対象として、下記研修プログラムを履修する。研修医 1 名に対して、指導医が総括的な指導を行う。

## III プログラムの指導者

統括責任者及び研修担当医

三浦 弘志（日本医学放射線学会認定放射線診断専門医、日本 IVR 学会認定指導医・評議員、日本脈管学会認定脈管専門医・評議員・専門医制度委員会委員、日本腹部救急医学会評議員・腹部救急認定医/教育医・学術プログラム委員、日本血管内治療学会評議員）

## IV 一般目標

2 年間の初期臨床研修の中で、一般臨床医に必要な放射線医学の基本となる考え方、臨床技術などを学ぶ。とくに、プライマリ・ケアの場面で必要な画像診断法について最低限の診断学を習得する。

## V 行動目標

- (1) 患者—医師関係
  - ・ 患者の社会的側面を配慮した意思決定ができる。
  - ・ 守秘義務の徹底
- (2) チーム医療
  - ・ 画像診断および放射線治療において、他科医師と円滑なコミュニケーションを持ち、患者にとって最良の診療を行うことができる。
- (3) 問題対応能力
- (4) 安全管理
- (5) 医療面接
  - ・ 患者の的確な問診ができる。
  - ・ コミュニケーションスキルの習得

## VI 経験目標

- (1) 放射線診断
  - a) 単純撮影・造影検査（消化管・泌尿器・血管造影など）・CT 検査・超音波検査・MRI 検査の意義、臨床における位置づけや限界、具体的な検査法について研修する。また、各画像診断の基礎となる解剖や診断装置の原理および構造を習得する。

b) CT 検査

CT からみた解剖の理解  
CT 検査の臨床における位置づけ  
基本的疾患および急性疾患の診断  
造影の適応および造影方法，撮像方法の理解

c) MRI 検査

MRI の原理および MRI からみた解剖の理解  
基本的疾患の読影

d) 超音波検査

超音波検査からみた解剖の理解  
基本的な検査手技の習得  
超音波検査の臨床での位置づけ  
基本的疾患および急性疾患の診断  
超音波ガイドによる治療手技の見学

e) 消化管検査

上部及び下部消化管検査の見学

f) 血管造影検査および IVR

血管解剖の理解  
緊急検査としての血管造影・IVR の意義および方法の理解  
基本的疾患および急性疾患の診断

## VII 研修スケジュール

研修スケジュールについては研修医の希望も考慮し，柔軟に対応する（最低 1 ヶ月間が望ましいが要望に応ずる）が，画像診断を中心とした 1 週間の研修時間割を下記に提示する。  
（半日を 1 単位とする）

研修は原則として，午前 8 時 30 分から午後 4 時 30 分までとする。

頭部、体部 CT	4 単位
MRI	3 単位
消化管	1 単位
血管造影・IVR	1 単位
超音波	1 単位

（希望に応じて変更も可能）

緊急血管造影検査や non-vascular IVR(外科領域)などについては  
適宜見学

放射線科内の読影会出席は義務とし，診療各科とのカンファレンスには可能な限り出席する。

## VIII 研修評価

EPOC オンライン評価システムに沿った評価を行う。